

尊む又女鷹男鷹を追くその強さを減くつゝふれを
男とぞむづれハ巢卧くぬる中盛なる鷹をよくやあふ
たもと後京極良経公鷹三百首の中ハ春ぬるへの
鷹のふれもけきとばりぬるものうもみもつゝむも
とめ紫松鷗軒記曰ぬるべ鷹も春の巢山ハ入る
大小とも飛くぬとるべ大鷹ハ小一羽とげも飛
まゝるをつゝと定む一羽とる三百丁の事とせぬあふ
百五十丁とる扱ふ妻あゝとひととる羽をぬめとたふ
萬葉集卷一中大兄命天智天皇の御製のもみよゆくと
より後の世に人のつゝあゝとひととる事少くはた古き